

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立本郷西小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	52.0	50.3	45.5	47.9	48.4
	本年度結果 偏差値平均	49.4	49.3	46.3	48.8	48.2	48.3
算数	前年度結果 偏差値平均	/	51.9	54.9	51.2	47.3	51.7
	本年度結果 偏差値平均	53.7	53.0	48.9	50.2	50.3	51.2
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	42.9	46.3	45.2
	本年度結果 偏差値平均	/	/	48.5	48.9	47.6	48.4
全体	前年度結果 偏差値平均	/	52.0	52.6	46.6	47.2	49.2
	本年度結果 偏差値平均	51.5	51.2	47.9	49.3	48.7	49.7

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	65 (94)	57 (89)
本年度結果 (対県比)	66 (95)	61 (95)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(〇ことばのたつじん●かんがえるたつじん◎NRTをうけて)</p> <p>○向かい合ったときの左右、先・手前などの指す意味の理解が低い。空間認識力に課題があると考えられる。</p> <p>●数直線上に分数や小数を表すことができていないことから、数の連続性や分数・小数の意味の理解が低いことが考えられる。</p> <p>◎情報を選び構成を考えて話す、考えや感想をもって伝えあうことの正答率が低いことから、論理的に思考し、表現することに課題があると考えられる。</p> <p>◎表と棒グラフ、ともなって変わる二つの数量の正答率が低いこと、全体的に知識・技能よりも思考・判断・表現の正答率が低いこと、この2点から思考力・表現力に課題があると考えられる。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>・言葉や文章を抜き出す問題は正答率が高いことから、テキストから情報を抜き出すことはできる。</p> <p>・資料がたくさんある問題、ページを行ったり来たりしながら読む問題の正答率が低いことから、量の多さや手順の多さに左右される傾向があると考えられる。</p> <p>・敬語の問題の正答率が低い、つまり、普段使わない言葉・なじみのない言葉に引っかかっており、語彙力に課題があると考えられる。</p> <p>・今までに見たことのない形式の表や問題文が一度読んだだけでは難しいものの正答率が低いことから、非テキストからの情報抽出、読解力等に課題があると考えられる。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>・「かたさのみられる学級集団」が1学級ある。学級経営やとりくみの修正が必要であると考えられる。</p> <p>・学習意欲は、全国平均よりも下回っている学年は1つであるが、意欲が「中」の学年が3つある。さらなる指導方法の工夫改善が必要である。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>・1回目に「かたさのみられる学級集団」だった学級が、集団へのとりくみもあり、「親和的なまとまりのある学級集団」に変わった。しかし、学級内の規律と人間関係が不安定になっていると判定された学級も新たに出現したため、学校全体で学級集団づくりについての理解を深める研修を行ったり、個の理解を深める情報共有を行っていく必要がある。</p>

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○論理的思考力の向上を意識した授業改善を行う。</p> <p>○「なぜ」「どうして」を児童から引き出す「問いの設定」を意識した授業を実施する。</p> <p>○課題の見られた領域や単元では、ドリルタイム・家庭学習等で基礎問題・適用題に重点的にとりくむ。</p>	<p>①分析をもとに、具体的な授業改善の内容を共有する。</p> <p>②「考える」ことについての理論研修を行う。</p> <p>③どのような考え方をを使うのかを明らかにした授業を展開する。</p> <p>④まとめやふりかえり場面で、適切な表現での文章で表せるよう、指導する。(1)構造的な板書、キーワードが見える板書(2)視点を決めたりふりかえり</p> <p>⑤筋道の通った(順が明確、結論先行型)発表の仕方を指導する。</p> <p>⑥図、文章、式を関係づける指導を行う。</p> <p>⑦課題発見・解決を行う授業研究を通して、授業改善を図る。</p> <p>⑧のびのびタイム等を活用し、基本的な内容の定着や不得意領域の練習を行う。</p>	<p>①5月</p> <p>②7月</p> <p>③6月～2月</p> <p>④6月～2月</p> <p>⑤6月～2月</p> <p>⑥6月～2月</p> <p>⑦5月～2月</p> <p>⑧6月～3月</p>	<p>・QU2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点以上)</p> <p>・各学期の単元末テスト平均値(全学級知識・技能85%以上、思考・判断・表現70%以上)</p> <p>・次年度NRTにおいて人数ピークを高得点側に10ポイント寄せる(全学級)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○「学び合い」「ペア・グループ学習」を取り入れた授業を実施する。</p> <p>○学級活動・委員会活動・行事等で、児童一人ひとりに役割のある内容になるよう工夫する。</p> <p>○全学級が、暮会で児童の様子を共有する。</p>	<p>①QUの分析による実態把握を行い、各学年の集団の特性を理解するとともに、特性に合った改善計画を立案・共有する。</p> <p>②重点的に指導すべき児童を全職員で共有する。</p> <p>③全職員が授業や委員会活動、縦割り掃除、行事など、さまざまな場で集団や個の特性に合わせた指導を行う。</p> <p>④暮会で、重点児童の経過報告と今後の対応の共有をする。</p> <p>⑤全職員が、重点児童とその対応について情報を引き継ぎ共有する。</p>	<p>①7月</p> <p>②7月</p> <p>③7月～2月</p> <p>④学期に数回</p> <p>⑤4月</p>	<p>・QU2回目の一次支援の数値向上</p>

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <p>●問題が読めない。語彙の少なさ、時間配分、最後までやり抜く気持ちの強さが足りない。</p> <p>●具体-抽象のように、上位語-下位語の概念形成が十分でない。</p> <p>●筋道を立てて考える論理的思考力が弱い。</p> <p>(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●単純な計算ができていない→わり算の性質が理解できていない。</p> <p>●テキスト・非テキストにかかわらず、解を導くための情報を取捨選択できない。</p> <p>●問われていることが理解できない。</p> <p>●自分の考えている解が選択肢にない場合の解の導き方が身につけていない。</p> <p>●自分の考えを論理的に述べる方法が身につけていない。</p>	<p>【学級集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●学級環境には満足している児童がほとんどである。一人ひとりの有用感を高める学級づくりを継続して進める。</p> <p>●学習意欲も全国平均以上であることから、現在進めている学習形態・授業改善等を今後も継続して行う。</p> <p>(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●ほとんどの学年が「親和的なまとまりのある学級集団」という判定である。また、1回目調査でもほぼ満足型であったが、2回目調査でもほぼ満足型である。基本的には現在の学級経営方針を継続していく。</p> <p>●非承認群等に属する児童には、個別に対応する。</p> <p>●教職員間で児童連携を継続して情報を共有し、OneTeamですべての子どもにあたっていく。</p> <p>●学習意欲は、前回よりもポイントアップ半分、ポイントダウン半分であった。授業改善の方向性や具体を示し、主体的に学ぶ子どもの育成をめざす授業づくりを進めていく。</p>
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <p>・まとまった文章を書くこと</p> <p>・四則計算の確実な定着</p> <p>・長文の読み取り</p>	<p>①授業におけるふりかえりを充実させる</p> <p>②帯タイム等を活用し、定着を図る</p> <p>③いろいろな問題を解き、問題に慣れる 消去法・ベターな選択</p>	<p>○次年度のNRT及び全国学調の結果 ポイントアップ NRT 同一集団標準偏差ポイントアップ 全国学調 ポイントアップ</p>
<p>【学級・学習集団づくりについて】□</p> <p>・児童生徒が主体の絆づくり</p> <p>・安心できる居場所づくり</p>	<p>①子どもが挑戦し、達成感を味わえる学校行事等を企画する</p> <p>②一人ひとりに声をかける</p>	<p>○QU2回目の一次支援の数値向上</p>